

教育学部・教育学部同窓会 共催事業報告

パネルディスカッション

『今求められている教師力』と『教育学部卒業生と語ろう』



学部見学会の様子

平成二〇年一〇月一日、大学祭（湍風祭）でにぎわう島根大学において、第二回ホームカミングデー（同窓会の集い）が開催されました。この催しの学部企画として、教育学部と教育学部同窓会が共催して、「新しくなった学部見学会」、「パネルディスカッション」、「交流会」が行われました。このうち、『今求められている教師力』と題したパネルディスカッションについて紹介します。

パネリスト

- 大森広子 氏 松江市立八束小学校校長（理科）
小室淑子 氏 安来第二中学校教諭（音楽）
広山隆行 氏 安来市立赤江小学校教諭（教育）
犬塚剛弘 氏 教育学部健康・スポーツ教育専攻四年
本藤阿沙子氏 教育学部初等教育開発専攻四年
コーディネーター
作野広和 氏 教育学部准教授（共生社会）



作野氏 本日は卒業生と現役学部生をパ

ネラーとしてお迎えし、「教師力」をテーマに、ざっくばらんに語り合ってみようという企画です。ただし、「教師力」とは何かと考えると実は難しく、私自身は、結局「人間力」なのではないかとも考えています。まずは、パネラーの皆さんに「教師力」という言葉から連想されることを自由に語っていただければと思います。



大森氏 私自身、夢や希望をもって教員になったというよりも、なんだか引きずり込まれたような形で校長にまでなつたという気がしています。鳥取県で小学校、中学校、複式学級を体験し、四回目の採用試験は結婚するので島根県を受け合格しました。

さて、「教師力」というテーマですが、最近はいろいろなことに「力」をつけてイメージ化することが多いですね。今日は、この会をおとして「教師力」について共通理解がもてればいいなと思います。私が考える「教師力」とは、やはり「資質と力量」ということになります。時代の変遷にかかわりなく、常に最重要なのは、使命感と情熱ではないでしょうか。次に、生徒、児童理解。そして、専門性を究めること、人間としての魅力を磨くことを忘れてはいけなと思います。また、「見えないカリキュラム」（きちんと挨拶ができること

いったこと)を大切にできることも重要です。これらはいずれも基礎的な側面です。一方、今の流行の中では、学生さんはコミュニケーション力をつけることも必要かもしれません。まずは社会人としてのマナーを身につけていることが基本となるでしょう。



小室氏 私は、小学校時代の先生の影響から教員を目指すようになりました。採用試験を受けたのはバブルの頃で、企業にいった人も多く、今と比べればとても楽に教員になれたと思っています。教員になってから

は県内の中学校だけでなく、チェコのプラハにある日本人学校にも三年間派遣していただきました。

さて、現在、「現場は混沌としている」といわれ、「大変でしょう」と声をかけられます。でも、そこに身を置くものとしては、しんどいですが大変とは感じません。「不易流行」という言葉がありますが、今は「流行」ばかりが見られてしまっています。ただ、周りからの要請で教育が変わっていく部分が生じるのは当然で、そこにばかり目を奪われてはいけません。教育にはずっと昔から変わらないものがあり、それを忘れてしまうと、本当に大変になってしまいかもありません。義務教育は「不易」を、しかもすぐには効果が表れないことばかりを背負っています。今問題があるとすれば、人格の形成をしているということの認知が揺らいでいるということかもしれません。教育は製品を作ることとは違います。私たちが根っこ

ろで何を育てようとしているのか、社会に発信していくことも必要かもしれません。

「教師力」としては、不易流行の理解、専門性(小さな子供相手になるほど専門性は必要です)、社会人としてあたりまえのことがあたりまえにできる力が挙げられると思います。



広山氏 私は平成七年に教育学部を卒業しました。今年は一二年目研修にあたっています。さて、今日は学生の皆さんが多く参加しておられ非常に感心しています。そこでちょっと訊いてみましょう。現在、現場は報告書の

山、教師は多忙です。それでも教師になりたい方。(学生挙手)たくさんいらつしゃいますね。ですが、子供たちの中にはいじめもあり、皆さんが暴力の対象になる恐れもあります。それでも教師になりたい方。(若干減る)それだけではありません。最近話題の保護者との関係、あるいは地域とのお付き合いもしなければなりません。さて、それでも教師になりたいという方。(さらに減る)ありがとうございます。いろいろ辛いことはあるけれど、それでも教師をやりたいという気持ち、それが「教師力」の基盤だと思えます。

「教師力」を具体的に考えると、三つの要素があると思います。一つは「授業力」。これは、専門性をもっているということです。教師になった当時、これといった専門をもたなかった私は、たまたま出会った道徳を突き詰め、『とっておきの道徳授業』という本を出す

ことができずました。教師の技術力である「授業力」はまず重要です。二つめは「組織形成力」です。現在、子供を個々に見ていく傾向が強まっていますが、学級は集団です。集団としての学級をまとめていく力は当然必要になります。そして、三つめが「局面指導」。事件が起こったときに限らず、その時々起こったことに対処する力が重要です。これまでは経験・知恵として伝えられてきたのですが、それが途切れようとしているようにも思います。そこで、これについても私は『局面指導』という本を出しました。参考にしていただければと思います。



犬塚氏 私自身には、経験もなく確かな「教師力」について語ることはできません。そこで、健康・スポーツ教育専攻の取組として行った、「ビビットひろば」(教育学部の「一〇〇〇時間体験学修」の一環として設けられた、子供たちとの交流)

における活動について発表したいと思えます。(パワーポイントによるスライドを使つての発表)



本藤氏 私にも語れるだけの経験はありません。一〇〇〇時間体験学修でうかがつた幼稚園で感じたことと、採用試験を通じて感じたことをお話しします。私なりに考える「教師力」の一つは、「演技力」です。幼稚園の現場にい

らつしやる先生方を見てみると、大げさにも褒める様子や、オーバーに表現されている姿など、まるで女優のように見えることがあります。また、幼稚園の採用試験でも、自分の演技力を試されているような気がしました。そして、私が考える「教師力」の二つめは、人間味です。現場の先生方が子供たちに向かって使われる言葉には感情を表現する言葉が多く、先生自身がどんな人間であるのかが、子供たちに影響を与えるのではないかと考えるようになったからです。最後に、ボランティア先の幼稚園の園長先生に「教師力」についてうかがつたところ、自分を磨いていこうと思う気持ちと、いい先輩に出会うことが大切だと教えていただきました。

作野氏 皆さんのお話をうかがつてきましたが、現場にいらつしやる三人の方からは奇しくも同じ言葉が語られたように思います。一つは「情熱と使命感」、二つめが「専門性」、三つめは、さまざまな言葉でいえると思えますが「調整力、渉外力、柔軟性、広い意味でのコミュニケーション能力」といったものではなかつたでしょうか。このうち二つめにつきましては大学でやっていることでもありませんので、一つめと三つめについてさらにかがっていきたいと思えます。私自身は、究極的に、「想い」や「情熱」を育てる術はあるのかという疑問を抱いているのですが、大森さんいかがでしょうか。

大森氏 自分の好きなことを見つけていくことによつて、想いや情熱が芽生えてくると思えます。そのためにはやはり出会いが大事であり、「どう出会わせるか」が重要になってくるでしょう。現在教育学部で行われている一〇〇〇時間体験学修も、「どう出会わせるか」



の一つの試みだろう
と思います。私が現場
で見ていて、学級崩壊
するクラスの担任に
は、このクラスには一
年後こうなつてほし
いといった目標が見
られません。これは若
い人がそうだといい
ことではなく、わりと
年配の教員に見られ
ることで、子供たちを
目の前にして自分の
やり方や考え方を更
新することができな
い人に多く見られる
傾向です。先生自身が
学校に出てこられな

くなることもあります。やはり柔軟性は必要でしょう。

小室氏 学校現場にはどんな世代の人もいて、男性も女性もいます。幅のある人々に出会えたことが私自身にとっては良かったことです。たとえば、私が新採のとき、新採がいるからと学年会を毎週やってくれた先輩がいました。今の自分は、やつてもらったことを同じよ

うにやっているだけでもいえます。「情熱」は大切なのですが、教師はチームとしてものごとにあたることも大切。組織として磨く、職場みんなで作っていくということが重要だと思っています。

広山氏 私自身に教師としての情熱があるのかどうかわかりませんが技術のある医者」がいれば、後者にかかりたいというのが人情でしょう。「情熱」とは、目に見えるとは限らないということを忘れてはなりません。そうであれば、やはり技術を磨くことは重要で、そのためには、結局、いい授業をどれだけ見るかだと思います。そして、「師匠」と呼べるような先輩に出会えるか、ということではないでしょうか。

犬塚氏 私は皆さんのお話を聞いていて、「情熱」といわれても自分にあるかどうかわからない、問われても答えられない、と感じています。そういう意味では、大学に入ってから今まで、皆さんがおっしゃるような「出会い」を経験できていないのではないか、大学生活は何だったのかというのが、今の気持ちです。

作野氏 いや、犬塚さんのその態度、格好をつけようとするのでなく、自らにないものをないと言える勇氣、それを表出できる勇氣こそが、本当に求められていることなのだと思います。

本藤氏 私は、採用試験の前に、印象に残ることを言わなければと考えて、ノートに書いていました。でも、「うまいこと」を言うことが大事ではないと感じられるようになりました。「うまいこと」は、言おうとするうちにどんどん消えていきます。私は、どんどん消え

ていく中で最後に残るのが、自分が本当はどうなりたいたのかという気持ちではないかと考えるようになりました。ですから、いろいろな人からどんないろいろなことを聴いて、自分の中に蓄積してきたと考えています。

作野氏 ここで、フロアからご意見やご感想をいただければと思います。



舟木氏（教育学部）

今日はいいお話をうかがうことができませんでした。年代を超えて皆さん同じようなことを考えておられるなと感じました。特に、「教師だけ人間である」と大学四年生で言えた本藤さんには感服し、大事なのは勇気だと再認識させてくれた犬塚さんに拍手を贈りたい。人間は、評価を気にすることで勇気が減る。犬塚さんには本当の勇気を

見せてもらいました。

恩田氏（同窓会誌編集長） いいお話でした。勇気のお話から、自分を変える勇気が必要ではないかと強く思いました。そして、少しでも自分を変えようとするのが「情熱」につながるのではないのでしょうか。言葉として語ることは別に、姿として語る、ということがあるように思います。先生の姿、子供の姿として語られることに耳を傾けることが大事だと思いました。

吉川氏（総合理工学部学生） 私は、お話をうかがっていて、何ごとにも全力でぶつかることが大事ではないかと感じました。私自身は、やりたいボランティアをやっていますが、教育学部の友人には、一〇〇〇時間体験学修でやることを「めんどくさい」と言っている人もいます。しかし、その一つ一つに全力でぶつかっていけば、何かが大きく変わるのではないのでしょうか。また、皆さんのお話にもありました、やはり私も、がんばっていい学級作りをなさっている先生の姿をみることで教師になりたいという気持ちが強くなりました。

作野氏 それでは、最後にパネラーの皆さんに、学生へのメッセージをいただきたいと思えます。

大森氏 先ほどの吉川さんこそが「情熱」のかたまりだと思えます。どうもありがとうございます。

小室氏 自分がまた変わるきっかけを、今日ここでもらえた気がします。死ぬまで人生修行、皆さんと一緒に働ける日を待っています。

広山氏 「教師力」が何かは結局わからなくとも、いろいろやって

いくことが大切です。そして、何より大切なことは、子供が伸びることなのです。

犬塚氏 今日は本当に勉強になりました。大学入学当時に今日の日があれば良かった。今日のことを自分の糧になればと思います。

本藤氏 ここで話す機会を与えていただいて良かったです。何を話すかまとまっていませんでしたが、聴いていただいて本当にありがとうございました。

田中瑩一同窓会長の挨拶



パネラーの皆さん、本当にありがとうございました。失礼ながらこんなに良い会になるとは思いませんでした。最初に考えていた企画は、「採用試験これが問われる」でした。（会場笑）そんなつまらないことを考えていた自分が恥ずかしい。

私は、今大切なのは「伝承」ということだと考えています。経験を語ることは、語る者自身を振り返らせ、聴く者の経験を生み、聴く者がいつか語る者となる。それが「伝承」であり、今ほどそのような「伝承」が必要なきはないかもしれません。そして、語り始めるために長い時間を要することもあるのです。今日のこの会は、一つの伝承の場であったと思います。

皆さん、本当にありがとうございました。